

# 中央教育審議会答申

平成28年12月21日

- ①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)
- ②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)
- ③「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」  
(子供の発達を踏まえた指導)
- ⑤「何が身に付いたか」(学習評価の充実)
- ⑥「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

「わかる！できる！授業が変わる！  
保健の授業づくり」

東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一

どのように学ぶかー主体的・対話的で深い学び  
(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善)

## 本日の講義と演習

### ①導入・展開の段階

主体的、対話的で深い学びにつながる教材の工夫

### ②単元の評価規準の作成

### ③展開の段階

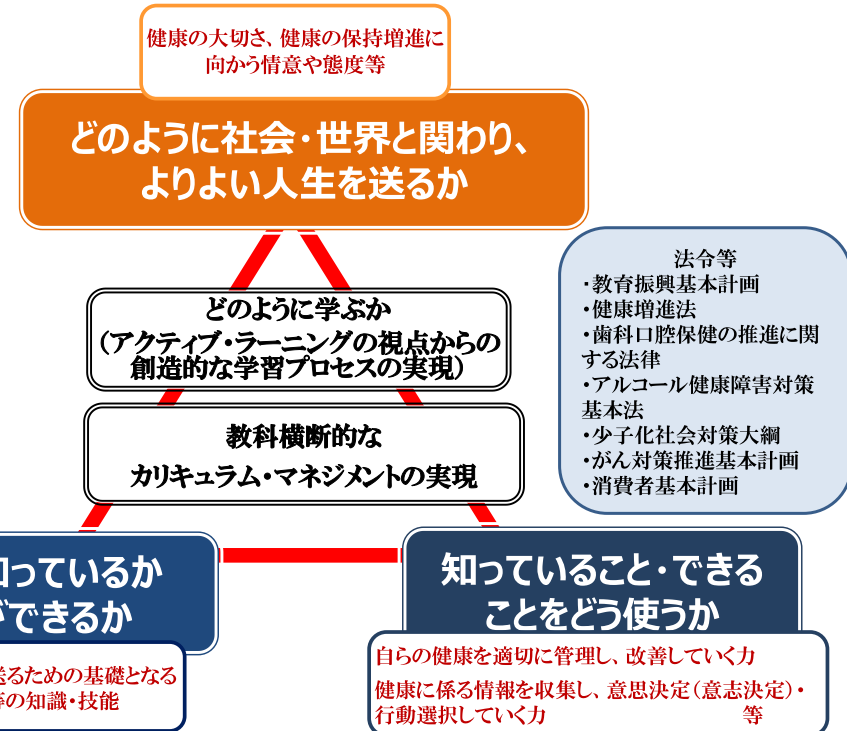
主体的、対話的で深い学びにつながる学習カードの工夫

# ①導入・展開の段階

主体的、対話的で深い学びにつながる教材の工夫

アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善

- ① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、**深い学びの過程**が実現できているかどうか。
- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学びの過程**が実現できているかどうか。
- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学びの過程**が実現できているかどうか。



## 健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高める導入



## 主体的、対話的で深い学びへの入り口

# 「主体的・対話的で深い学び」について ディスカッションしましょう

・「**主体的な学び**」は、運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程と捉えられる。各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視するものである。

9

## (カ) 健康を守る社会の取組

健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに、社会の取組が有効であることを理解できるようにする。社会の取組としては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることを理解できるようにする。その際、住民の健康診断や健康相談などを適宜取り上げ、健康増進や疾病予防についての地域の保健活動についても理解できるようにする。

また、心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であることを理解できるようにする。さらに、**医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする。**

# ディスカッション 主体的な学び



## 演習① 医薬品の内容から「主体的な学び」の観点から学習活動を考えてみよう

3 薬局やドラッグストアで手に取れる場所にある医薬品と、カウンターの奥やガラスケースの中であって自分で手に取ることができない医薬品があるのはなぜかを考える。

また、手に取れない場所にあった医薬品をすぐに購入することができなかった理由について考える。

**ワークシート(1)**

① 薬局やドラッグストアに行くと、手に取れる場所にある医薬品と、カウンターの奥やガラスケースの中であって自分で手に取ることができない医薬品があります。それはなぜなのでしょう？



② 手に取れない場所にあった医薬品をすぐに購入することができませんでした。それはなぜだったのでしょうか。理由を考えてみましょう。

・五～七人のグループになり、話し合い、代表者が発表する。  
(予想される発言例)

① 危険なものそうでないもの値段が高いから  
副作用の危険性が高いもの

② 薬剤師がいなかったから  
薬剤師がいないと買えないものだったから  
買うことができない時間だったから

実際の薬局やドラッグストアの販売風景の画像(陳列の様子や販売に関する案内、販売者の名札など)を見せるとよいでしょう。



展  
開  
4  
0  
分

文部科学省「生きる力を  
はぐくむ保健教育の手引」

・「対話的な学び」は、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。

# ディスカッション対話的な学び



演習① 医薬品の内容から「対話的な学び」の観点から学習活動を考えてみよう

13

ワークシート

2年 組 番名前 月 日

まとめてみよう！

医療用医薬品・一般用医薬品・要指導医薬品の分類			
	医療用医薬品	一般用医薬品	要指導医薬品
定義 (使用できる人) (説明内容から)			
承認審査上の違い (使用する状況)			
各承認事項毎の対比	効能効果	医師の診断・治療による疾患名	一般の人が自ら判断できる症状
	用法用量	医師の指導及び監督下 制限なし	一般の人が自らの判断で適用できるよう ・使いやすい剤型 ・用量は医療用の範囲内
	剤型		一般の人が自らの判断で適用できるよう、薬剤師が対面で情報提供や指導などをとする。
	使用上の注意	医師・薬剤師にとって見やすい	一般の人に理解しやすい 副作用のリスクが高いか 不確定
薬品	A	B	C

資料3(処方箋・説明文書)※抜粋

薬品B

日本薬局方 フェキソフェナジン塩酸塩錠	
アレルギー専用鼻炎薬	薬品B
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2世代抗ヒスタミン成分 フェキソフェナジン塩酸塩が、花粉やハウスダストによる鼻みず、鼻づまり、くしゃみなどのつらいアレルギー症状に優れた効果を発揮します。</li> <li>● 鼻に影響を及ぼしにくいため、眠くなりにくいアレルギー専用鼻炎薬です。</li> </ul>	


相談すること	
① 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。	
(1) 医師の治療を受けている人	
(2) アレルギー性鼻炎か、かぜ等の原因によるものかわからない人	
(3) 気管支ぜんそく、アトピー性皮膚炎等の他のアレルギー疾患の診断を受けたことがある人	
(4) 鼻づまりの症状が強い人	
(5) 妊婦又は妊娠していると思われる人	
(6) 高齢者	
(7) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人	
② 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この説明文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。	
薬効部位	症状
皮膚	のど・まぶた・口唇等のはれ、発疹、かゆみ、じんましん、皮膚が赤くなる
消化器	はきけ、嘔吐、腹痛、消化不良
精神神経系	しびれ感、頭痛、疲労、倦怠感、めまい、不眠、神経過敏、悪夢、睡眠障害



## 導入の段階

学習内容に興味・関心が高まる  
発問の工夫

(3) 展開            : ねらい            : 学習内容            : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 7分	1. 本時の学習課題について考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">病気「X」は何だろう。</div>	<p>○教師の提示する内容から病気「X」について考えることにより、本時の学習内容に興味を持って参加できるようにする。</p> <p>○思いつく病名について、自由に発表させる。</p> <p>○病気「X」は、エイズであることを知らせる。</p> <p>○エイズは正しい知識を持ち、適切な注意を払うことにより、感染から身を守ることができる病気であることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; display: inline-block;"> <p style="color: #0070C0;">今、エイズについて学ぶことは、大変重要なことであることを伝えましょう。</p>  </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">病気「X」は何だろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">1 病気「X」は、体の抵抗力を弱らせます。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">2 病気「X」は、今のところ完全に治す薬はありません。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">3 病気「X」は、発症まで10年かかることもあります。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">4 病気「X」は、新規報告者数が年々増加傾向です。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">5 病気「X」は、20代と30代の若者層に多いです。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">6 病気「X」は、血液や性的接触により感染します。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">7 病気「X」は、予防することができます。</div>	

## 演習1

### 「病気「X」は何だろう」の教材をノートにつくりましょう

演習「病気「X」は何だろう」の教材をノートにつくりましょう。

- ・ヒントは4~5で作成します。
- ・生徒には、上から一つずつ見せますのでわかりにくい(考えた疾病名が特定されない)から並べます。
- ・最後のヒントは、必ず一人以上の生徒が分かるものにしましょう。

次の項目に着目すると、作りやすくなります。

- 1 現状(疫学)
- 2 原因
- 3 予防
- 4 症状
- 5 治療
- 6 歴史
- 7 疾病概念(総論)

### 細菌

一つの細胞しかないので単細胞生物と呼ばれます。細菌は栄養源さえあれば自分と同じ細菌を複製して増えていくことができます。人の体に侵入して病気を起こす有害な細菌もいます。一方で人の生活に有用な細菌も存在します(納豆菌など)。人の体には多くの種類の細菌がいて、皮膚の表面や腸の中の環境を保っています。

### ウイルス

細菌の50分の1程度の大きさで、とても小さく、自分で細胞を持ちません。ウイルスには細胞がないので、他の細胞に入り込んで生きていきます。ヒトの体にウイルスが侵入すると、ヒトの細胞の中に入って自分のコピーを作らせ、細胞が破裂してたくさんのウイルスが飛び出し、ほかの細胞に入りこみます。このようにして、ウイルスは増殖していきます。

21

AMR臨床リファレンスセンター<http://amr.ncgm.go.jp/general/1-1-2.html>

## 病気「X」は何だろう

- 1 この病気は細菌・ウイルスが要因となることがあります。
- 2 高齢者に多い病気です。
- 3 早く発見できれば、90%以上治ります。
- 4 適切な生活習慣を身に付けることで予防することができます。

23

### 教材の工夫

がんについて理解を深めるには

がんの知識を広げる

生徒が気付いていない知識を取り上げる。

知識の問い直しをする

その知識は本当なのかがあるのか?

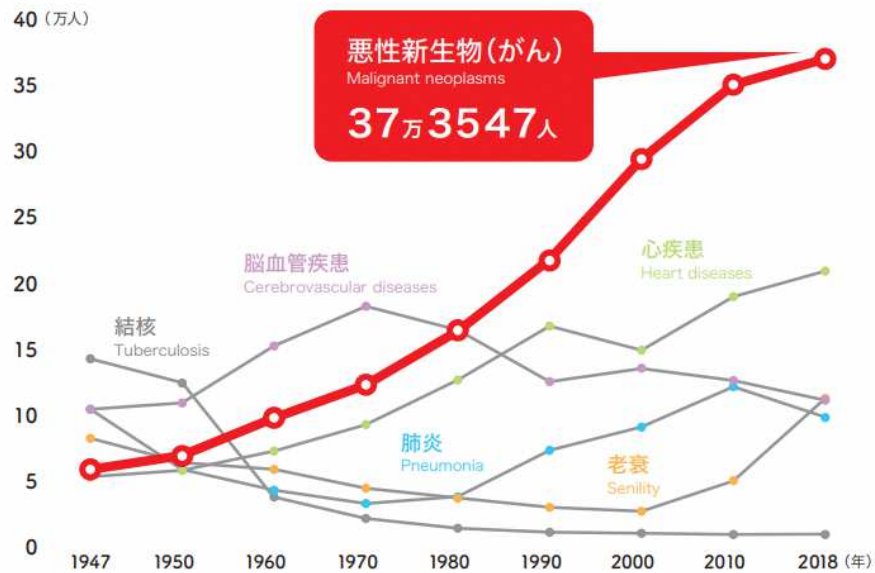
がん以外のことと関連付ける

ほかの疾病や社会との関連。

## これは本当? 意外な事実

なぜ医療は進歩しているのにがん患者は増えているの?

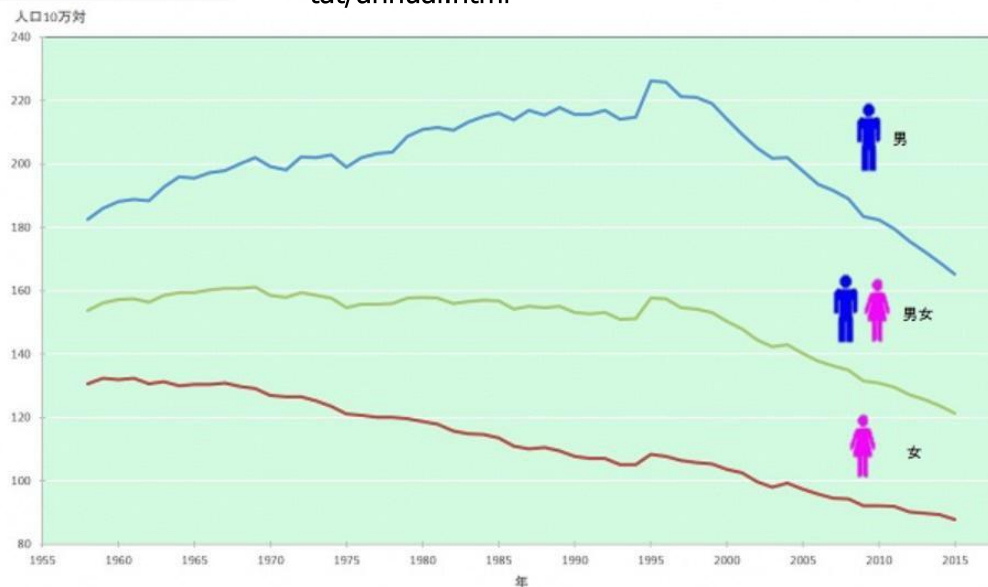
なぜ早期発見すれば90%以上治るといのにがんで亡くなる人が多いの?



(図1) 我が国における死亡率の推移(主な死因別)  
(厚生労働省「人口動態統計」を基に公益財団法人がん研究振興財団が作成(「がん統計'19」))

部位別がん年齢調整死亡率の推移  
(全部位・性別)  
[ 1958年~2015年 ]

[https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/annual.html](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/annual.html)



資料: 国立がん研究センターがん対策情報センター  
Source: Center for Cancer Control and Information Services,  
National Cancer Center, Japan

②単元の評価規準づくりの実際

## 演習2

単元の評価規準を作成しよう。

## 知識・技能の評価

- 保健の技能は知識との関連が深く、分かったうえでできることが求められる。したがって、心肺蘇生法などについては、知識と技能の習得を一体的に行うことができるような学習活動(実習)を設定する必要がある。評価にあたっては、例えば、ワークシートで技能のポイント等の「知識」の状況を見取れるようにするとともに、観察で「技能」の状況も見取れるようにする工夫が必要である。

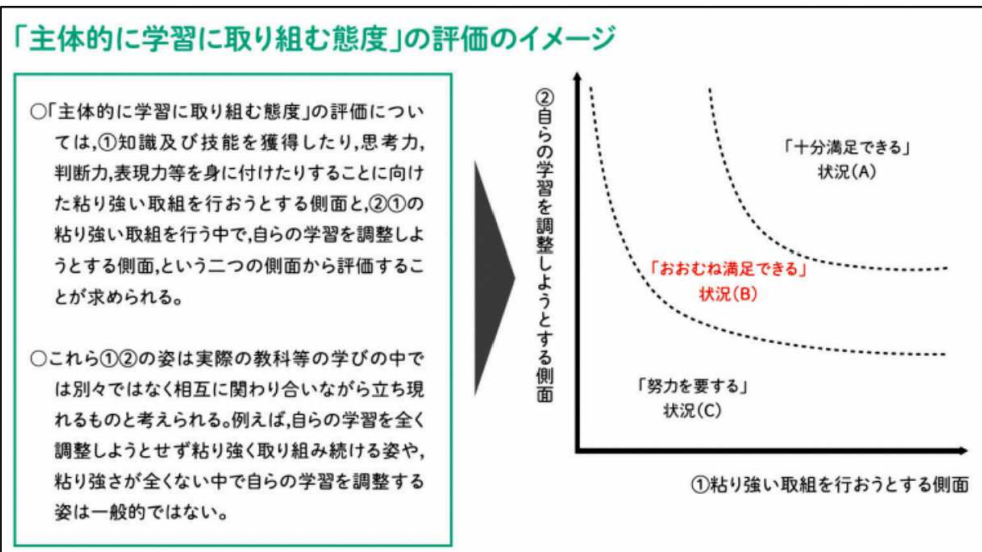
## 思考・判断・表現の評価

- 「思考・判断・表現」の評価は、健康課題の解決に関する指導に対して、単元を通して①課題の発見、②解決、③表現の3段階で評価する。
- すべての生徒を評価するにはワークシートなどの記述が有効。それを踏まえて、テスト問題を選択式で作成することも可能。
- 課題の解決方法を複数考えられるようにし、それらから方法を選択する際に、生徒の「適切な選択」を具体的に評価できるようにするための設問や記述欄を設ける。

## 主体的に学習に取り組む態度の評価

- 保健の「学びに向かう力、人間性等」は、自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育てることによって、生徒が現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指したものである。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組もうとしているかどうかを評価することが重要。





「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)

評価の進め方

留意点



○ 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。  
○ 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

#### 単元の目標及び評価規準の関係性について(イメージ図)

○ 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。  
○ どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

「単元の評価規準」の作成の考え方

ア 本事例における「単元」の考え方

答申では「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりのこと」としている。

保健分野では、「内容のまとまり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとまり」をいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が想定される。

【中学校保健分野の単元設定例】

内容のまとまり	単元設定例	学年	時数
(1)健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因	1	4
	生活習慣と健康	2	4
	生活習慣病などの予防	2	4
	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	4
	感染症の予防	3	4
(2)心身の機能の発達と心の健康	健康を守る社会の取組	3	4
	心身の機能の発達	1	6
(3)傷害の防止	心の健康	1	6
	傷害の防止	2	8
(4)健康と環境	健康と環境	3	8

演習

- 「傷害の防止」について、単元の目標、評価規準を作成してみよう。

○「知識・技能」のポイント
学習指導要領解説における「2 内容」の記載を基に評価規準を作成する。その際、保健の技能はその行い方（対処の仕方）についての知識の習得と併せて指導することが大切であるため、原則や概念に関する知識に加えて、該当する技能についての行い方（対処の仕方）に関する知識も評価規準に加筆することも考えられる。
・「知識」については、解説の「～理解している」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」として、評価規準を作成する。
・「技能」については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～（行い方・対処）について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、（～が）できる」として、評価規準を作成する。
○「思考・判断・表現」のポイント
学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際、【例示】に記載された内容を踏まえるとともに、実際の学習活動に合わせ、文末を「～している」として、作成する。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ、文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

イ 傷害を防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

### (3) 傷害の防止

(3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

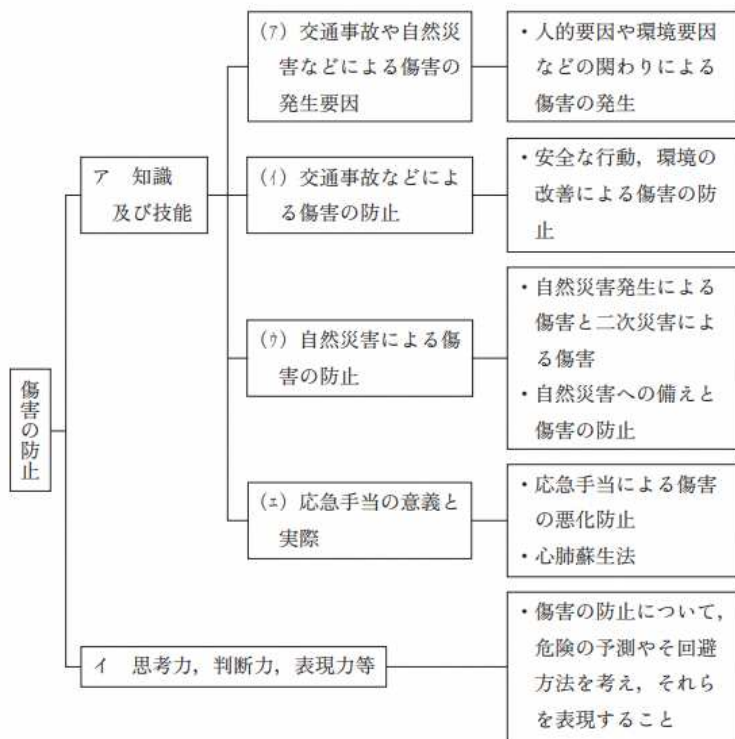
#### 単元名 傷害の防止

##### 1単元の目標

(1)

(2)

(3)



41

## イ 思考力, 判断力, 表現力等

傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し, 自他の危険の予測を基に, 危険を回避したり, 傷害の悪化を防止したりする方法を考え, 適切な方法を選択し, それらを伝え合うことができるようにする。

42

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

43

### ア 知識及び技能

#### (ア) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因

交通事故や自然災害などによる傷害は, 人的要因, 環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生すること, 人的要因としては, 人間の心身の状態や行動の仕方について, 環境要因としては, 生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。

なお, 学校の状況に応じて, 運動による傷害の発生要因について適宜取り上げることにも配慮するものとする。

44



## (イ) 交通事故などによる傷害の防止

交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。人的要因に対しては、心身の状態や周囲の状況を把握し、判断して、安全に行動すること、環境要因に対しては、環境を安全にするために、道路などの交通環境などの整備、改善をすることがあることなどについて理解できるようにする。また、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。

その際、自転車事故を起こすことによる加害責任についても触れるようにする。なお、必要に応じて、通学路を含む地域社会で発生する犯罪が原因となる傷害とその防止について取り上げることにも配慮するものとする。

45

## (ウ) 自然災害による傷害の防止

自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること、また、地震に伴って発生する、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などの二次災害によっても生じること理解できるようにする。

自然災害による傷害の防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、緊急地震速報を含む災害情報を正確に把握すること、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることを理解できるようにする。

また、地域の実情に応じて、気象災害や火山災害などについても触れるようにする。

46

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり、人的要因に対しては、安全に行動すること、環境要因に対しては、交通環境などの整備、改善をすることがあることや、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる危険が原因となって生じることや、地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の防止には、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</p> <p>⑤心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>		

### 〈例示〉

- ・傷害の防止における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見すること。
- ・交通事故、自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択すること。
- ・傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見いだすこと。
- ・傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うこと

48

# 演習

## ■「応急手当」について、単元の目標、評価規準を作成してみよう。

### (1)「単元の評価規準」の作成の考え方

#### ア 本事例における「単元」の考え方

答申では「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりのこと」としている。

科目保健では、内容のまとまりをそのまま「単元」として捉える場合と、内容のまとまりをいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が想定される。

#### 【高等学校科目保健の単元設定例】

内容のまとまり	単元例	学年*1	時数*2
(1) 現代社会と健康	(ア)健康の考え方	入学年次	4
	(イ)現代の感染症とその予防	入学年次	5
	(ウ)生活習慣病などの予防と回復	入学年次	4
	(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	入学年次	7
	(オ)精神疾患の予防と回復	入学年次	4
(2) 安全な社会生活	(ア)安全な社会づくり	入学年次	5
	(イ)応急手当	入学年次	6
(3) 生涯を通じる健康	(ア)生涯の各段階における健康	その次の年次	7
	(イ)労働と健康	その次の年次	4
(4) 健康を支える環境づくり	(ア)環境と健康	その次の年次	5
	(イ)食品と健康	その次の年次	5
	(ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	その次の年次	6
	(エ)様々な保健活動や社会的対策	その次の年次	3
	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加	その次の年次	5

\*1 保健の履修学年については原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることとなっている。単元設定および履修学年は各学校において検討の上決定することとなる。

\*2 単元の配当時数については、生徒の実態等を考慮し、各学校において決定する。ここでは、標準単位数が2であることを踏まえ、年間35時間で示した。

### ウ 「単元の評価規準」を作成する際のポイント

単元の評価規準は、生徒の実態等を考慮しつつ、内容のまとまりごとの評価規準をもとに作成する。本事例では、文末を以下のとおりに変えることで評価規準を作成している。

#### ○「知識・技能」のポイント

学習指導要領解説における「2 内容」の記載を基に評価規準を作成する。その際、保健の技能はその行い方についての知識の習得と併せて指導することが大切であるため、原則や概念に関する知識に加えて、該当する技能についての行い方に関する知識も評価規準に加筆することも考えられる。

- ・「知識」については、解説の「～理解している」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」として、評価規準を作成する。
- ・「技能」については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、(～が)できる」として、評価規準を作成する。

#### ○「思考・判断・表現」のポイント

学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際、[例示]に記載された内容を踏まえるとともに、実際の学習活動に合わせ、文末を「～している」として作成する。

#### ○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ、文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。



## (イ) 応急手当

### (イ) 応急手当

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。

心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。

イ 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

53

### イ 思考力, 判断力, 表現力等

安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。

〈例示〉

・安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。

・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用すること。

・安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること

55

### (イ) 応急手当

#### ㊦ 応急手当の意義

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。

#### ㊧ 日常的な応急手当

日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。

#### ㊨ 心肺蘇生法

心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにする。

その際、複数人数で対処することがより有効であること、胸骨圧迫を優先することについて触れるようにする。

54

## 単元名 応急手当

### 1単元の目標

(1) 応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について、理解することができるようにする。

(2) 応急手当に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。

(3) 応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について、**自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。**

56

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

・「**深い学び**」は、自他の健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程と捉えられる。児童生徒の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、体育科、保健体育科の「**見方・考え方**」を育てることを重視するものである。

### ③展開の段階

主体的、対話的深い学びにつながる  
学習カードの工夫

# 深い学び



イ 思考力, 判断力, 表現力等  
健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、**疾病等のリスクを軽減**したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、**適切な方法を選択し**、それらを伝え合うことができるようにする。

## 〈例示〉

- ・健康な生活と疾病の予防における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見すること。
- ・感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、**疾病等にかかるリスクを軽減**し健康を保持増進する方法を**選択**すること。
- ・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うこと。

### 方法を選択するには

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しよう。

【自分の考え】 _____ _____ _____
【友達の考え】
→付けたし・直し

## リスクを軽減するためには

感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であることを理解できるようにする。また、感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることを理解できるようにする。(学習指導要領解説)

## 〈例示〉

### 中学校

- ・生活習慣病及びがんの予防や、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、**疾病等にかかるリスクを軽減**し健康の保持増進をする方法を**選択**すること。

### 高等学校

- ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、**リスクの軽減**と生活の質の向上に必要な個人の取組や**社会的な対策**を整理すること。

### 演習3

児童生徒が思考を深めることができるワークシートを考えてみよう。

### ②同様に学習カードを考えよう

40代の家族、または将来のあなたに対しての、がんの予防方法を「生活習慣」、「がん検診」の言葉を使って説明しよう。

【自分の考え】

【友達の考え】

【まとめ】

66

## まとめ

**保健の見方・考え方**については、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」であると考えられる。

学習意欲・思考力を育む

保健の授業の実現